

令和4年第4回（8月）瀬戸内市議会定例会

行政報告

本日は、令和4年第4回（8月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症については、オミクロン株のBA.5系統が第7波の流行の主流となり、8月19日には、瀬戸内市においても100人を超える感染者が発生しました。

岡山県においては、8月に入り1日に3,000人を超える感染者が発生したことなどにより、8月5日から8月31日までを期間として、「BA.5対策強化宣言」を行い、高齢者や基礎疾患のある重症化リスクの高い人等は混雑した場所への外出等感染リスクの高い行動を控えること等の要請を行いました。

第7波においては、特に若年層に多くの感染者が発生していることから、本市では未だ3回目接種をしていない若い世代の方に接種していただけるよう引き続きワクチン接種の効果や安全性について周知を行ってまいります。

現在新型コロナワクチン接種については、3回目接種から5か月以上経過した60歳以上の方、18歳以上の基礎疾患を有する方、医療従事者や高

齡者施設関係者を対象として4回目接種を実施しています。

このような中、オミクロン株に対応した新しいワクチンの接種についても、厚生労働省からの通知に基づき準備を進めており、詳細が決まり次第、市民の皆さまにお知らせすることとしています。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

○ ウクライナ人道支援への寄附金の受付について

武力攻撃により故郷を追われたウクライナの人々への人道的な支援のため、ふるさと納税制度を活用した寄附金の受付を開始します。

いただいた寄附金は、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）が取り組むウクライナ避難民をはじめ、世界各地の難民支援に活用します。また、今後、ウクライナから瀬戸内市へ避難された方への支援に充てることも想定しています。

本市では、今年3月の寄附をきっかけとしてUNHCR駐日事務所などとの連携による難民支援関連のイベント開催などの事業も検討しており、今回のふるさと納税による寄附を通じた支援の取組とあわせて、市民に限らず多くの皆さまに難民問題や多文化共生による多様な価値観や考え方についてご理解いただく機会につながるものと考えています。

○ 国土利用計画の策定について

今年度末の策定に向けて作業を進めている国土利用計画については、6月12日にキックオフイベントとして、市民まちづくりフォーラム「瀬戸内市のランドデザインを考える」を開催し、同時開催した「こどもひろば」を含め、88人の方にご参加いただきました。

このイベント当日の様子は、ホームページ内のリンクにて録画した動画を配信しています。

また、6月下旬から7月末まで市内13か所、14回とオンライン1回の計15回、「瀬戸内タウンミーティング」を開催し、ご参加いただいた延べ約200人の方からは、恵まれた豊かな自然を守りつつ、道路交通環境を改善することや遊びに行きたくなるような公園の必要性など、多くのご意見をいただきました。これらの貴重なご意見は、今後、市のホームページで公表するとともに、国土利用計画の策定に活かすこととしています。

○ 食のしあわせプロジェクトについて

本市では、平成26年度から市民団体や小売店、農業関係者の皆さまとの協働により、学校給食への地場食材の提供による地産地消を推進しており、子どもたちの郷土愛の醸成を図るとともに、本市にとって重要な産業である農業への理解と農家の所得の拡大など様々な効果を生んでいるものと考えています。

この取組をより発展させるため、「食のしあわせプロジェクト」として今

後も継続的に事業を展開することとし、まずは保護者や農業関係者、給食関係者などの皆さまに向け、学校給食での地産地消や食の安全・安心、豊かな食生活などに関する理解を深めていただくための講演会などの開催を予定しており、関連予算を計上しています。

○ パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について

10月から導入する予定で準備を進めているパートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の導入にあたっては、転入や転出時に再申請などの負担を減らすため、既に制度の相互利用を行っている岡山市、総社市、備前市の3市の協定に加わる予定で協議を行っています。

7月には、市民の方にこの制度の意義を知ってもらうため、「聞き上手養成講座」としてワークショップを開催しました。

今後も市民や民間事業者の皆さまに対し、広報紙等でこの制度の意義や多様性を認めあうことの大切さを知っていただき、みんなの思いやりがあふれる人権尊重のまちづくりを目指していきます。

○ 発熱者等旅客運送事業感染対策助成事業について

新型コロナウイルス第7波の影響により、7月以降、市内においても新型コロナ感染者が爆発的に増加しています。

こうした中、一人暮らしの高齢者等に発熱等の症状があっても、医療機関

までの移動手段が見つからない事例が発生しています。

このため、発熱等の症状がある方を医療機関まで（又はその逆区間）搬送した事業者に対して、感染防止資材や消毒等に要する費用等を助成する予算を計上しています。

○ 民間の小規模保育事業所の新設について

令和4年度の入園申し込みにおいて、0～1歳児の入園希望が増加し、現在6人の待機児童が発生しています。

このような状況の中、市内の民間保育事業者から0～2歳児対象の小規模保育事業所を設置したいとの意向が示されました。市としては出来るだけ早期に待機児童の解消を目指すこととし、国の交付金を活用し、当事業者に補助金を交付することとしました。事業者は令和4年度中に施設の改修を行い、令和5年度からの開園を予定しています。

○ 岡山デスティネーションキャンペーンについて

本年7月から9月にかけて、岡山県とJRが主体となって全国に向けて誘客プロモーションを行う「岡山デスティネーションキャンペーン」が実施され、本市でも、この期間中2事業を展開しています。まず、7月20日から8月31日まで牛窓地区においてアートイベント「mt project」を誘致し、観光誘客を促進しています。併せて、アートイベントに連動した

スタンプラリー事業を実施し、観光客の滞在時間の延長を進めています。次に、8月から9月までの土日祝日に、備前長船刀剣博物館の特別展に合わせ、長船地区や邑久地区の観光関連施設を周遊する巡回バスを運行しています。昨年のモニターツアーで要望が多かった施設を巡回するもので、備前長船刀剣博物館周辺に集中していた観光客がその他の施設を巡回することで、刀剣ファンの市内での滞在時間の延長を進めます。

○ 瀬戸内市文化財保存活用地域計画について

令和2年度から策定を進めていた瀬戸内市文化財保存活用地域計画については、学識経験者や地域の文化財所有者・管理者・活用者などと協議し、また文化庁や岡山県からの指導を受けて計画案を作成し、8月9日からパブリックコメントを実施したところです。今後はパブリックコメントでいただいたご意見などを検討し、今年度中に計画を策定し、文化庁の認定を受けるように進めていきます。

○ 備前長船刀剣博物館について

備前長船刀剣博物館では、8月11日から9月25日まで国宝「山鳥毛」の公開とあわせ、特別展「長船の系譜－700年の栄枯盛衰－」を開催しています。本展では、鎌倉時代中期から昭和時代初期にかけて活躍した長船派の主な刀工の刀剣を中心に展示し、長船派の栄枯盛衰の歴史や特徴を紹介

しています。初日から入館予約が定員に達するなど好評を博しており、多くの来館者が市内にある刀剣ゆかりの地も巡り、日本刀の聖地・長船を知る機会となっています。

○ 瀬戸内市立美術館について

瀬戸内市立美術館では、7月20日から8月31日まで特別展「m t A R T P R O J E C T A T S E T O U C H I C I T Y M U S E U M O F A R T」を開催しています。夏休み期間ということもあり、家族連れも多く来館し、次代を担う子どもが芸術にふれる機会となりました。

9月6日から9月25日までは、瀬戸内の景色や風土、文化に育てられた地域の作家を中心に顕彰する企画展「瀬戸内S P I R A L」、10月9日から来年1月15日までは、市内在住で、現在の日本画壇を牽引する井手康人氏を顕彰する特別展「神々の視座－井手康人－」を開催し、地域の芸術家の顕彰を通して、地域の芸術文化の振興を図っていきます。

また、美術館で過去に開催した巨匠展に作品をお貸しいただくなど、ご協力をいただいていた方のご遺族から絵画42点の寄贈がありました。今後はご遺族等とも相談しながら展示等活用を図っていきます。

○ 救急概況について

今年1月から6月までの上半期の救急件数は991件でした。高齢者の

家庭内事故の増加、新型コロナウイルス関連の救急も増加し前年の同期より115件増加しています。

同期間の新型コロナウイルス関連の出動件数については、疑いも含め26件となっています。また、救急搬送受け入れ状況については、搬送困難事案は数件ありますが、比較的スムーズな医療機関への搬送ができています。熱中症については、5月から7月までの間で25件となっており、前年度よりも5件の増加となり、そのうち、高齢者が16人となっています。今後、熱中症や高齢者の家庭内事故を未然に防ぐため、防災行政無線やパンフレット配布などを通して「予防救急」を継続し啓発していきます。

○ 第50回全国消防救助技術大会への出場について

第34回消防救助技術岡山県大会の3種目で好成績を収めた本市消防本部の救助隊員4名が、7月20日に広島県広島市で開催された第50回中国地区消防救助技術指導会に出場しました。その中で、本庄 ^{もとき} 幹 消防士長が、ロープブリッジ渡過訓練において、出場隊員30名中、第1位の成績を収め、8月26日に東京都立川市で開催された第50回全国消防救助技術大会に岡山県代表として出場しました。

ロープブリッジ渡過とは、水平に張られた20mのロープを往路と復路で渡り方を変えて往復し、安全確実性と所要時間を評価する訓練です。今後とも様々な訓練を通じて救助技術の向上を図っていきます。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、条例1件、補正予算9件、その他15件、計25件です。

よろしくご審議をいただき、適切なお決定をいただきますようお願い申し上げます。市長部局の報告を終わらせていただきます。

令和4年8月30日

瀬戸内市長 武久 顕也